

対象地域の現況

目 次

1. 対象地域の概況.....	1
1-1. 地島及び大島の概況.....	1
1-2. 人口等.....	2
1-3. 主要施設の立地状況.....	4
1-4. 漁業の状況.....	6
1-5. 観光・交流の状況.....	7
1-6. 活性化の取組み.....	9

1. 対象地域の概況

本業務の対象航路である「地島～神湊航路」（以下、「地島航路」という。）により本土と結ばれる地島と、地島に密接に関連する大島も含めて地域の概況を整理する。

1-1. 地島及び大島の概況

【地島】

○地島は、宗像市鐘崎の北西約 1.6 km に位置する、面積約 1.6 km² の島で、多くが原生林に覆われた急峻な山地となっている。

○島の南東部に泊漁港、中西部には白浜漁港があり、本土とを結ぶ渡船が発着する。泊漁港の周囲に泊集落、白浜漁港の周囲に豊岡集落が形成されている。

○平成 15 年の宗像市との合併前は玄海町に属し、町として渡船を運営していた。

【大島】

○大島は、宗像市神湊の北西約 6.5 km に位置する、面積約 7.2 km² の島で、多くは起伏の激しい丘陵地となっている。

○大規模な集落地は島の南東部にある大島港の周辺に形成されており、航路ターミナル、公共施設、小中学校などの施設が立地している。

○平成 17 年の宗像市との合併前は大島村であり、村として渡船を運営していた。

○平成 29 年 7 月には中津宮と沖津宮遙拝所が「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の一部として世界遺産に登録された。

■地島及び大島の位置



1-2. 人口等

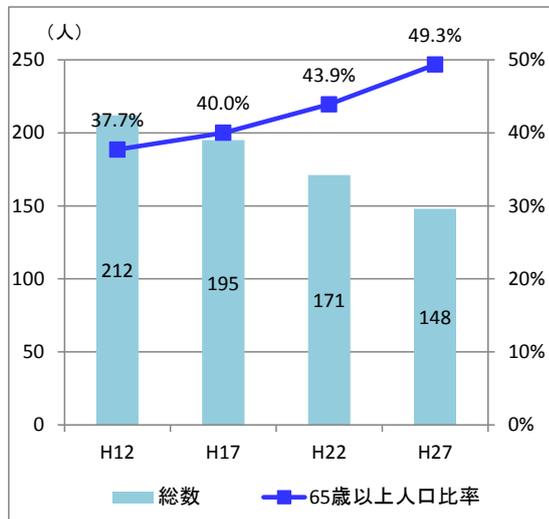
○地島、大島の人口はそれぞれ 152 人、680 人（平成 29 年 3 月、住民基本台帳）で、ともに人口の減少と高齢人口比率の増加が長期にわたって続いている。

○地島では平成 27 年までの 15 年間で人口は約 30%減少し、大島では同期間に約 33%減少している。（国勢調査人口）

○平成 22 年 3 月からの 7 年間で、地島では約 17%減少しており、人口減少傾向はやや緩やかになっている。一方、大島では約 15%減少しており、人口減少の傾向は緩んでいない。

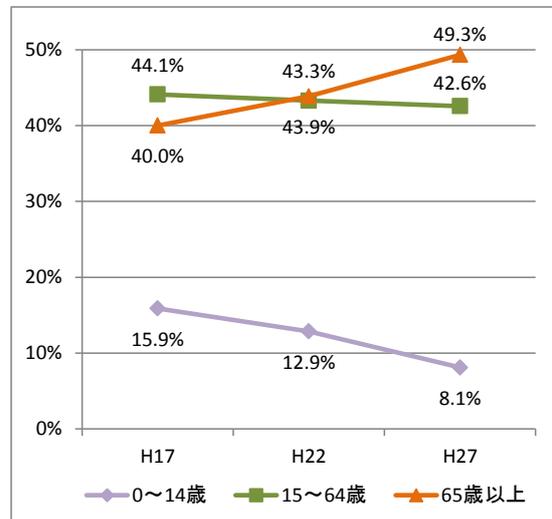
○高齢者人口比率は、両島とも長期にわたって増加傾向が続き、平成 29 年 3 月時点で、地島では 46.1%、大島では 45.4%と 50%に近づいてきている。

■地島の人口等の推移



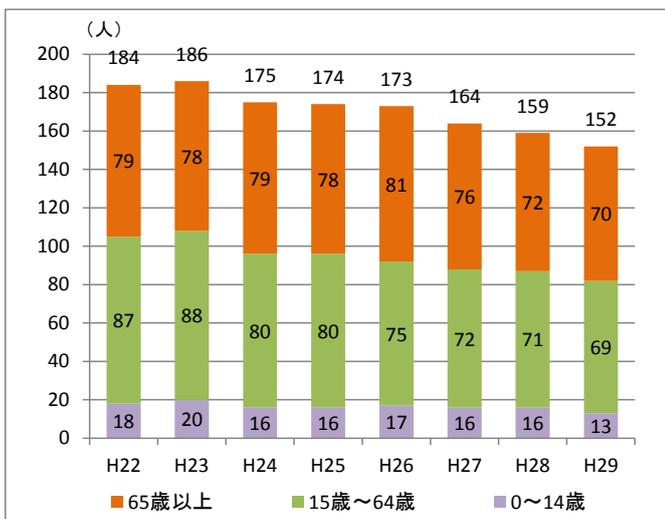
資料：国勢調査（宗像市離島振興計画（平成 25 年））

■地島の年齢別人口比率の推移



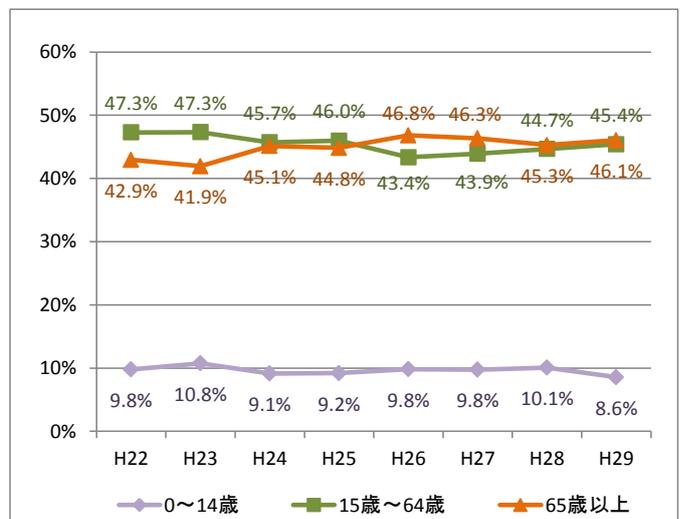
資料：国勢調査

■地島の近年の人口の推移



資料：住民基本台帳（宗像市統計書）
注）各年 3 月末現在

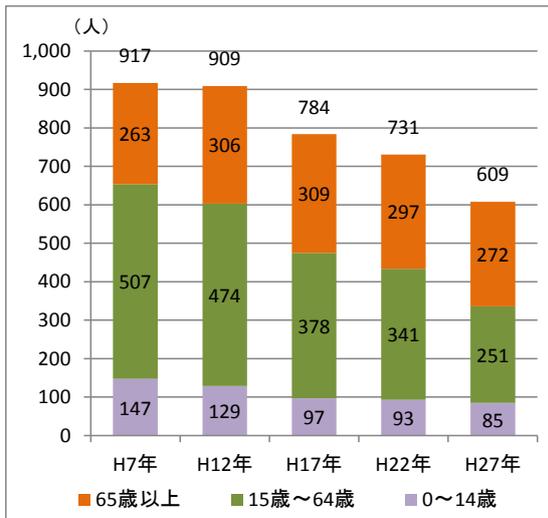
■地島の近年の年齢別人口比率の推移



資料：住民基本台帳（宗像市統計書）
注）各年 3 月末現在

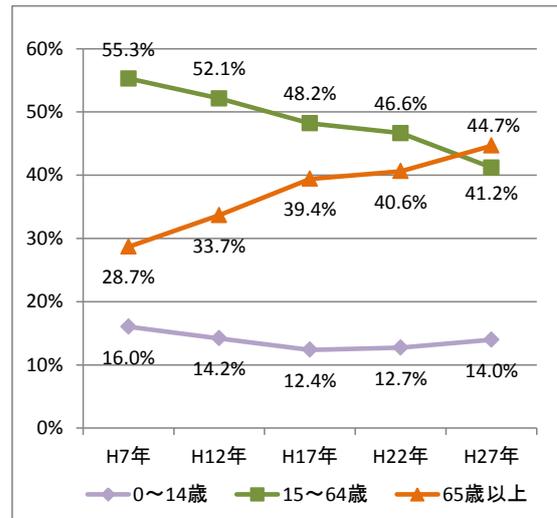
<大島の人口>

■大島の人口の推移



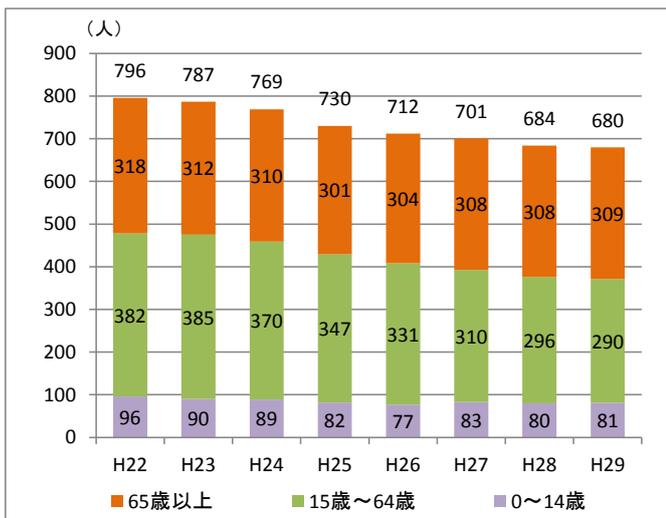
資料：国勢調査（宗像市統計書）

■大島の年齢別人口比率の推移



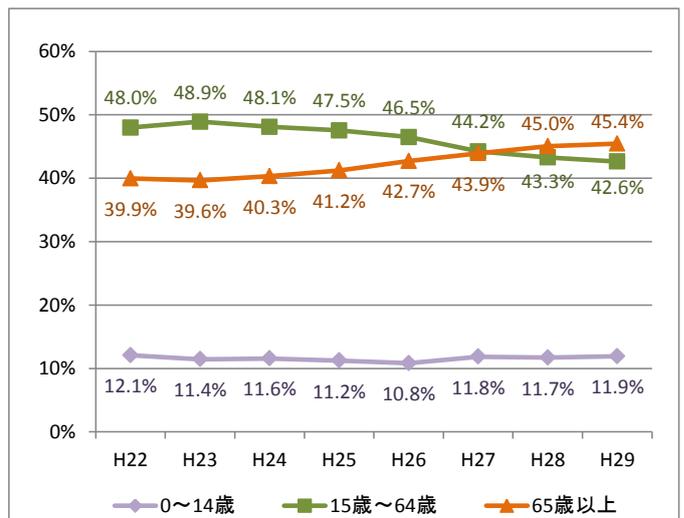
資料：国勢調査（宗像市統計書）

■大島の近年の人口の推移



資料：住民基本台帳（宗像市統計書）
注）各年3月末現在

■大島の近年の年齢別人口比率の推移



資料：住民基本台帳（宗像市統計書）
注）各年3月末現在

1-3. 主要施設の立地状況

【地島】

○地島に立地する公共的な施設はわずかである。教育施設は幼稚園、小学校のみで、中学生は本土の中学校に通学している。小学生を対象に漁村留学の取組みが行われている。複合的な役割を果たす地島離島体験交流施設が立地し、長年医療機関がなかったが、平成28年11月に地島診療所が開設された。

【大島】

○大島は平成17年3月に宗像市と合併するまでは大島村として一つの自治体だったことから、行政センターなどの公共施設、郵便局等の公益施設、医療施設、小中学校等、生活を支える施設が比較的整っている。

■ 地島の主要な施設

	名称	概要
公共施設	地島離島体験交流施設 地島ふれあい館	<ul style="list-style-type: none"> ・1階には離島体験交流機能で、会議室や和室、調理室などの貸室、ガイダンス室などからなり、ガイダンス室は泊港の渡船待合所としても活用できる ・地島診療所 ・2階は、地島漁村留学生の寄宿舎となっている
公益施設	宗像漁業協同組合地島支所	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業協同組合の各種サービス ・物販店舗(購買部)がある(H27年1月～休業中)
医療施設	地島診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・泊港渡船場近くの宗像市離島体験交流施設内に診療所を開設(平成27年11月) ・初期の内科診療、予防接種や特定健診、他医療機関への紹介を行っている ・隔週水曜日、1日2時間の診療時間(13:00～15:00)
教育施設等	地島小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・3クラス、児童数10人(平成30年4月) ・平成15年から漁村留學生児童が入学 ・中学校は、本土側の玄海中学校の校区
	玄海ゆりの樹幼稚園地島分園	<ul style="list-style-type: none"> ・玄海ゆりの樹幼稚園(私立)の分園
社会基盤施設	地島浄水場	<ul style="list-style-type: none"> ・地島簡易水道の浄水場
	地島(泊)処理場	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業集落排水施設の泊地区の処理施設・管路
	地島(豊岡)処理場	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業集落排水施設の豊岡地区の処理施設・管路
港湾・漁港施設	泊漁港	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港、本土(神湊)とを結ぶ航路の渡船場がある
	白浜漁港	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港、本土(神湊)とを結ぶ航路の渡船場がある

資料：宗像市施設は市ホームページ、公益施設等は事業者のホームページ、教育施設は各学校等ホームページの資料から作成

■ 大島の主要な施設

	名称	概要
公共施設	宗像市役所大島行政センター	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市役所の支所 ・元気な島づくり課などがある
	大島地区コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・文化などの学習や、住みよい地域づくりのための活動ができる施設

	名 称	概 要
	大島運動場	・多目的グラウンド、多目的広場、ゲートボール場、子ども広場等、敷地面積 21,000 m ² ・住民の健康づくりとコミュニケーションのための場
	宗像地区消防本部大島分遣所	・職員数 2 名、車両台数 1 台
公益施設	大島郵便局	・郵便、貯金、保険の窓口、ATM
	宗像農業協同組合大島支店	・農業協同組合の各種サービス ・物販店舗(購買店)がある
	宗像漁業協同組合大島支所	・平成 26 年 4 月に宗像、鐘崎漁協が合併して宗像漁業協同組合として設立 ・漁業協同組合の各種サービス ・物販店舗(購買部)がある
医療施設	大島診療所	・レントゲンやエコーをはじめとする医療機器を設備 ・医師 1 人、看護師 2 人、事務員 1 人で運営
	大島歯科診療所	・加来歯科医院の大島歯科診療所、平成 17 年開業 ・毎週、木曜日及び金曜日に診療
教育施設等	大島小学校	・大島小・中学校は、施設一体型の校舎で保育所も校地に隣接 ・児童・生徒は、保育所から中学校卒業まで、同じ環境の中、ほぼそのままのメンバーで過ごす ・7 クラス、児童数 28 人(平成 30 年 4 月現在)
	大島中学校	・3 クラス、生徒数 18 人(平成 30 年 4 月現在)
	大島へき地保育所	・保育所
社会基盤施設	大島浄水場	・大島簡易水道の給水施設能力1日最大 440 立方メートルの浄水場、配水池を2ヶ所整備 ・島内の給水率は、約 98%
	大島処理場	・漁業集落排水施設の処理施設・管路
	大島一般廃棄物処理場	・敷地内には空き缶やペットボトルなどを分別・保管するためのストックヤードを併設 ・可燃ごみ及び不燃ごみはフェリーで本土に運び処分
	大島火葬場	・火葬場
港湾・漁港施設等	大島港	・玄海・響灘を航行する船舶の避難港としての機能、本土との連絡港として商港機能を有する地方港湾 ・係留施設として、物揚場、船揚場、浮棧橋がある ・港湾施設として広場、駐車場、便所、遊具、緑地、休憩所があり(県が港湾環境整備事業で整備)、維持管理は市が実施 ・大島港渡船ターミナルがある
	大島漁港	・大島港に隣接する漁港 ・海岸環境施設として人工海浜、緑地、駐車場、東屋、便所、更衣室があり(県が海岸環境整備事業で整備)、維持管理は市が実施
	海上タクシー	・宝栄丸(客室、トイレ設置)、いつでも利用できる海上タクシー ・急患の搬送、渡船運航時間外の渡航者の輸送等

資料：宗像市施設は市ホームページ、公益施設等は事業者のホームページ、教育施設は各学校ホームページの資料から作成

1-4. 漁業の状況

【地島】

○地島の漁業は平成 27 年度で、組合員数 41 人、船数 83 隻、漁獲高約 176 トン、漁獲金額 1.5 億円である。

○組合員数や船数は横ばい又は緩やかな減少であるが、漁獲金額は平成 17～18 年度と比べて約 6 割を下回る水準にまで減少している。

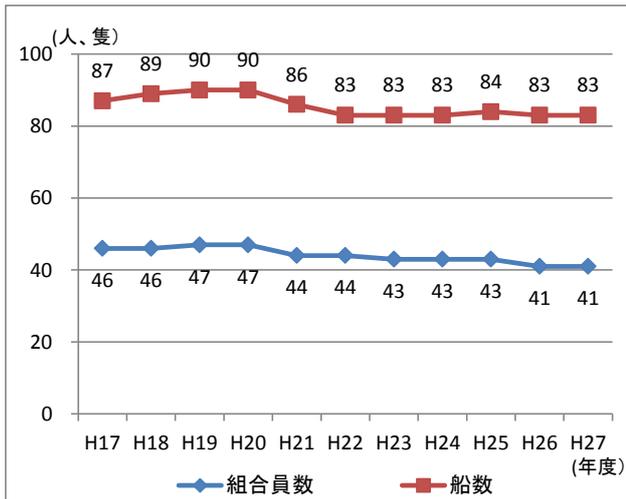
【大島】

○大島の漁業は平成 27 年度で、組合員数 114 人、船数 162 隻、漁獲高約 1,300 トン、漁獲金額 8 億円である。

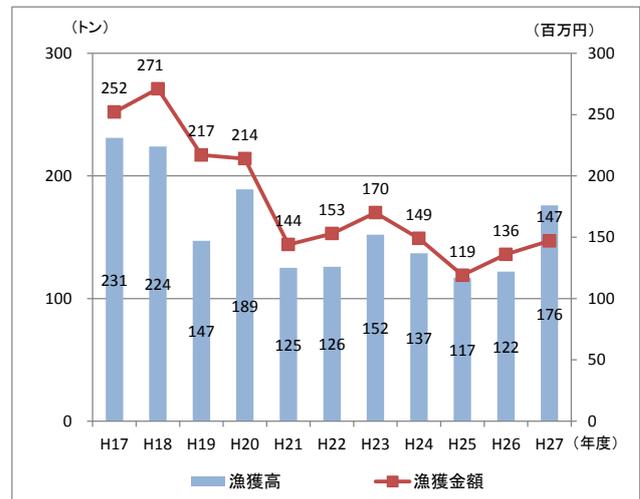
○組合員数や船数は横ばいで推移しているが、漁獲高、漁獲金額は平成 27 年度には平成 20 年度の漁獲高で約 4 割、漁獲金額で約 5 割に減少している。

■地島の漁業の状況

【組合員数・船数】



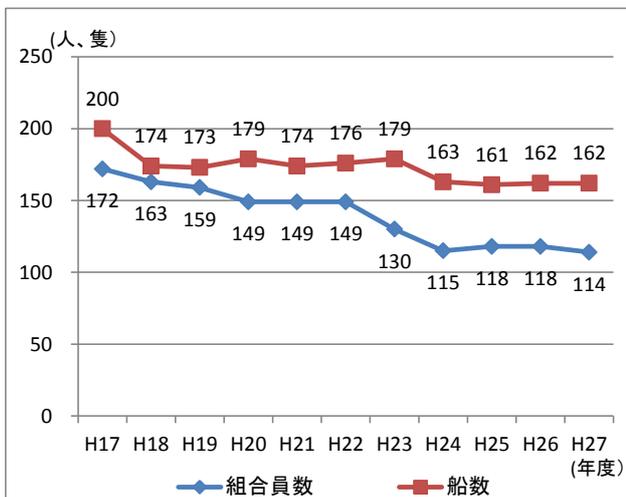
【漁獲高・漁獲金額】



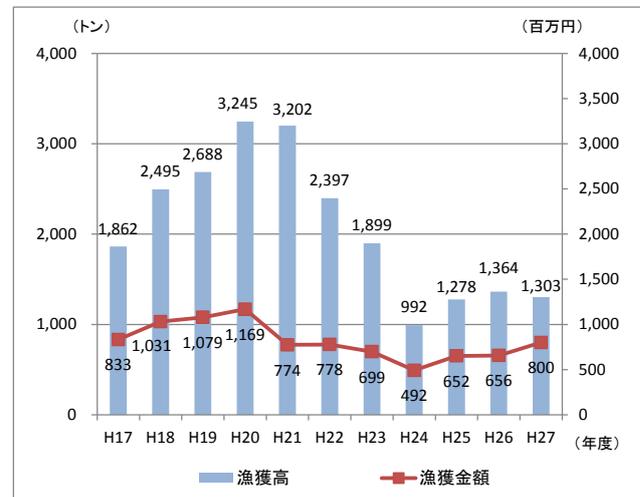
資料：宗像市統計書

■大島の漁業の状況

【組合員数・船数】



【漁獲高・漁獲金額】



資料：宗像市統計書

1-5. 観光・交流の状況

【地島】

- 釣りや漁業を活用した交流活動の取組みが行われており、漁業体験や海の幸の食・土産が魅力になっている。また、島釣りの良好なスポットとなっている
- 島内に群生しているヤブツバキを活かしてつばき園と遊歩道が整備され、地島つばき祭りは多くの観光客を集めている。
- 自然体験学習の取組みを進めており、また、漁村留学として小学生児童を地島小学校に受け入れる取組みも継続して実施している。

【大島】

- 大島では、歴史・文化、釣りを含む海洋レクリエーション、自然散策・ウォーキング等の観光・交流が行われ、それに対応した施設等が多い。
- 歴史・文化では宗像大社に関連する施設が中心となっており、平成29年7月に宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界遺産に登録された。大島には、構成資産の宗像大社中津宮、宗像大社沖津宮遥拝所がある。
- 海洋レクリエーションでは、釣りに加えて、海洋体験施設であるうみんぐ大島がある。
- 九州オルレ宗像・大島コースの整備が行われ、大島の自然環境を楽しむ散策・ウォーキングのための環境が向上している。
- みあれ祭、中津宮セタまつりなどは多くの観光客を集めている。
- 海の幸を中心とした料理は大島観光の魅力の一つとなっている。

■ 地島の観光・交流施設等

	名 称	概 要
歴史・文化	厳島神社	・宗像三姫神を祀る神社で、地島の祇園山笠が出発する
	殿様波止	・江戸時代に黒田長政が築造した泊漁港にある波止
自然体験・交流	つばき園(つばきロード)	・島内にはヤブツバキが約6千本群生 ・つばき園と遊歩道(平成8年整備)があり、ハイキングコースとなる
	漁業体験	・地島わかめの収穫体験などの催しが行われている。
	漁村留学	・地島において漁村生活を体験し、自然体験学習を行うことを目的として宗像市立地島小学校に入学又は転学 ・受入れ施設の管理・運営や交流事業に対して市から補助金を交付
	地島ふれあい館	・平成27年10月30日にオープン ・1階部分は会議室や和室、調理室などの施設貸出部分と、ガイドンス室、泊港の渡船待合所 ・診療所機能を備え、地島診療所を開設 ・2階部分は、地島漁村留学生の寄宿舎
祭・イベント	地島椿まつり	・3月上旬行われるイベントで、いろいろな催しや特産品の販売などが行われる
	地島祇園山笠	・7月下旬に行われる厳島神社の祭り

資料：市及び宗像観光協会の資料等から作成

■ 大島の観光・交流施設等

	名 称	概 要
歴史・文化	宗像大社中津宮	・宗像三女神の一神・湍津姫神(たぎつひめかみ)を祀る神社、本殿は県指定文化財
	宗像大社沖津宮遥拝所	・漁に出る家族の安全祈願や女人禁制の沖ノ島に行けない女性たちなどが沖津宮を参拝するために建てられた遥拝所
	世界遺産登録への取組み	・「宗像大社中津宮」、「沖津宮遥拝所」、「大島御嶽山遺跡」は世界遺産暫定リストに記載された「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産
	馬蹄岩	・宗像三女神の一神である田心姫神が馬に乗って沖ノ島へ飛び渡ったときにできた馬の足跡だと伝えられる
	夢の小夜島	・連歌師宗祇の筑紫道中記に歌われた島
海洋レクリエーション	うみんぐ大島	・釣防波堤、釣堀、プレジャーボートステーションなどからなる海洋レクリエーションの拠点施設 ・平成 23 年 4 月開業
	かんす海水浴場	・島唯一の海水浴場 ・東屋、ベンチ、ボードウォーク等を設置 ・付近は天然の磯場で磯遊びが楽しめる
	大島観光休憩所	・かんす海水浴場のすぐ近くにあり、夏場の期間、休憩室やシャワー室、トイレなどが利用できる
	釣り場	・うみんぐ大島のほか、大島漁港や宮崎漁港の周辺などが釣り場となる
自然鑑賞・体験	御嶽山展望台	・大島の最高峰御嶽山(標高 224m)にある展望台 ・晴れた日には沖ノ島、壱岐などを望める
	風車展望所	・島の北部、小高い丘の上にある風車展望所で、海を望む最高のロケーション
	大島灯台	・島の北西部、神崎鼻に立つ白垂の灯台 ・付近には岩生植物のハマヒサカキ(イソシバ)が群生
	九州オルレ宗像・大島コース	・海や山などの自然を五感で感じながら楽しむトレッキングコース ・コースの要所に標識を設置
祭り・イベント	みあれ祭	・10 月 1 日、筑前七浦の各港から 200 隻以上の船が 1 年間の海上交通の安全と豊漁を祈って、大島から神湊までの玄界灘を海上パレード ・この日は三姫神が年に 1 度会う日で、三姫神が大社に着いてから放生会が始まる
	中津宮七夕まつり	・8 月 7 日に、中津宮の祭壇に青笹を立て、願いごとを書いた短冊を結びつけて、七夕踊りを奉納しながら願いごとの成就を祈る ・大島が、「天の川伝説の発祥地」という説もある
宿泊施設・食事処	旅館、民宿、食事処	・玄海の海の幸などの料理が楽しめる

資料：市、宗像観光協会及び宗像大島.COM のホームページの資料等から作成

1-6. 活性化の取組み

- 大島、地島において人口減少や高齢化の進展に対応して地域の活性化をどのように図っていくのかの基本方向は「宗像市離島振興計画（平成25年）」において示されている。
- 地域活性化は、両島の主要産業である漁業の振興を基礎に、漁業等を活かした体験型交流、島の自然、歴史を活かした観光・交流の活性化を通じて実現していくという基本的方向が示されている。
- 大島及び地島においては、「元気な島づくり事業推進協議会」を組織し、観光・交流を中心に振興事業が実施されている。

①宗像市離島振興計画（平成25年4月、宗像市）

宗像市離島振興計画（平成25年）においては、次のような地域活性化に向けた基本方針と施策が示されている。

※航路運営に直接かかわる交通体系の整備については、新造船の建造、地島泊港の渡船待合所老朽化対応、島内交通手段の充実（大島）などが実現している。

■ 宗像市離島振興計画における地域活性化の方向

項目	概要
計画策定の趣旨等	<ul style="list-style-type: none"> ○計画策定の趣旨 <ul style="list-style-type: none"> ・離島の自立的発展を促進し、人口減少防止並びに定住を図るため、生活環境の整備や福祉の充実、地理的・自然特性を活かした産業振興、地域間の交流の促進等に関する施策の基本方針及び施策を示す。 ○計画の期間 <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度～34年度までの10年間 ○計画の対象地域 <ul style="list-style-type: none"> ・大島地域及び地島地域
大島の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ①農業、水産業、サービス業の再生 ②交流人口の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光を活用した交流事業の推進 ・島の自然、歴史(世界遺産構成資産)を活用した交流事業の推進 ③定住環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全の暮らしの確保、教育環境の充実、雇用機会の確保 ④人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・島内人材の育成、島外者との交流に基づく外部人材の確保
地島の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ①交流人口の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・漁村留学を活用した交流事業の推進 ・島の産業を活用した交流事業の推進 ②産業の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・特産品の開発による販路開拓・拡大 ・産業の観光・交流事業への利用促進 ③生活環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護・福祉の充実、救急体制の整備 ④人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・島内人材の育成、島外者との交流に基づく外部人材の確保

項目	概要
〈各分野における施策〉	※航路運営に関係が強い分野の主な施策を記載
交通・通信の確保	<p>〈交通体系の整備〉</p> <p>①離島航路の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な渡船経営を展開し離島航路を維持 ・新造船の建造や船舶・施設の維持管理 <p>②アクセスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本土(神湊港)から連絡するバス、鉄道との接続の改善 <p>③島内渡船施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地島泊港の渡船待合所の老朽化に対応した建替え整備 <p>④島内道路の整備</p> <p>⑤観光客の増加に対応するための島内交通手段の充実</p> <p>〈人の往来、物資の流通に要する費用の低廉化〉</p> <p>①渡船運賃の負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島民や市内在住の高齢者等の渡船運賃に対する助成の継続、島内の幼児に対する運賃助成の拡大 <p>②高齢者の島内移動手段確保(大島の高齢者のタクシー利用の一部補助の継続)</p> <p>③物資流通体制の整備(漁港の事業統合等による物流の効率化、合理化の推進)</p>
産業の振興	<p>〈農林水産業の振興〉</p> <p>①漁業経営の改善、漁場の保全</p> <p>②水産物の安定生産・供給・ブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つくり育てる漁業」へシフト(大島:アワビ、地島:ワカメ) ・特産品開発、ブランド化 <p>③耕作放棄地の活用、かんきつ類の生産振興、牧場の経営安定化</p>
観光の振興	<p>①推進体制の整備(人材の育成等)</p> <p>②情報発信体制の強化(渡船ターミナル施設、HP等の観光情報発信機能の強化)</p> <p>③施設の整備及び維持管理(観光施設の整備と施設老朽化への対応)</p> <p>④ガイドの育成(大島:ガイド組織の再編、地島:ガイド組織の立上げ)</p> <p>⑤島内移動手段の確保(観光客が島内を周遊できる交通手段を確保)</p> <p>⑥島外アクセスの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島外からの旅行事業者等の車両航送料金に対する支援 ・観光需要に対応した島外からのアクセスの検討(島内移動手段と連携した集客) <p>⑦着地型メニューの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業体験、遊漁船体験、体験農業等、既存の産業を活かした体験交流プログラムの開発 ・地島では、離島交流施設の建設、漁村留学との連携等によるプログラム開発 <p>⑧特産品の開発</p> <p>⑨旅館・民宿の活性化(施設の老朽化に対応した改修、宿泊利用者への支援検討)</p> <p>⑩活動連携の強化</p> <p>⑪世界遺産構成資産の活用</p>

②「元気な島づくり事業推進協議会」等による取組み

宗像市元気な島づくり事業として、次のような事業が実施されている。5年間の継続事業が多い。

■ 宗像市元気な島づくり事業（平成29年度）

事業名	事業概要(実施団体)
島のイベントのあり方を島の方々とともに考える－企画段階からの参加を探る－	(九州女子大学人間生活学科) ・地島の地引網体験、椿まつり及び大島の七夕まつりの3つの島外者に対するイベントに対し、事前の会議に出席し、新企画や発案を行う ・子どもの居場所づくり等の活動内容を学生が企画し、活動を行う ・現状把握ができていない部分のイベントに参加させてもらい、次年度につなげる準備を行う
「大島ワク・ドキ子ども活動支援」事業	(大島小学校PTA) ・地域と家庭と学校が十分な連携を図り、他校のPTAとは質の違う子どもの活動支援を実施する
市民参加型ミュージカルむなかた三女神記～大島物語～	(公益社団法人宗像青年会議所) ・宗像市内および近郊市郡の小中高学生を広く一般募集し、4ヶ月の練習を重ね8月(予定)に大島小学校ホールにて市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記～大島物語～」を公演する ・世界文化遺産や大島の自然に関する座学・同時期に大島で開催されている「七夕まつり」への企画・島内の方々との交流事業・ワークショップなども並行して企画 ・出演者の多くが学生であることから、後日、出演者・指導者・運営者にて講演内容や合宿期間のVTRを見ながら演技・運営方法について検証を行い、あらためて大島の自然や歴史的価値を確認して自分たちの住む地域への誇りと郷土愛の育成を図るとともに大島についての座学・ワークショップを行い、幅広い世代の理解力に寄り添った事業とすることによって、継続した発展を実現する
「いきき地島っ子活動支援」事業	(地島小学校PTA) ・地域と家庭と学校が十分な連携を図り、多様な体験活動支援を実施する
大島グルメフェス 来て！見て！大島	(大島がんばる隊) ・大島のグルメ、特産品開発、屋台等の出店をきっかけに島民に大島の特産品やグルメの開発を考える機会にする
地島の椿を活かした特産品に関する研究事業	(地島つばき姫) ・地島の特色を活かした料理研究・商品開発を行うことで島の活性化を図る ・市内本土及び島内での試食懇談会・商品開発・特産品販売促進を積極的に行うことで、島民と島外の者との情報交換・交流促進を図りながら地島の特産品などを通じての活性化を図る

出典：メイトム宗像（市民活動交流館）ホームページの資料より作成